

はんじゅくヒヨコ



Reman



# 目次

1 びよ	1
2 びよ	2
3 びよ	3
4 びよ	4
5 びよ	5
6 びよ	6



# 1 ぴよ

あーあ

はやく うまれたいなあ

そんなときです。

トントントン

まちにまった あいずがありました。

そりゃあ！！ とたまごのカラに

あたまを ぶつけて とびだすと

それはそれは たくさんのニワトリがコケコケおしゃべりしていました。

ぼくも まけじとピヨピヨすると、ママトリがやってきて、

「ありゃ〜！」

とおめめを まるくして いました。

「あなた まだ はんじゆく じゃない」

そのヒヨコはあたまも はねも ふわふわでしたが、まだ からだは とろとろでした。

「ごめんね、ママ はやとちり しちゃった みたい！」

チャーミングに ベロリと ベろを だすので、

はんじゆくヒヨコは オッケー！ と おやゆびを たてました。

## 2びよ

ポーンポーンと おおきな かねが なり、

たくさんのごはんが 空からふってきました。

「うおおおおお！！！！」

と、ぜんりよく 100 パーセントで ごはん めがけて 走ります。

だけど あしは ヨチヨチ ヨチヨチ。

あまりにゆっくり なので 後から うまれた ヒヨコにも 追いつかれて、

やっと たどりついた時には ごはんは からっぽでした。

大きな ヒヨコが やってきて はんじゆくヒヨコを からかいました。

「ウツヒャツヒャ、トロトロの トロいやつにくわせるメシなんかねえぜ！」

いじわるに ニヤニヤとわらうので

「なんでやねん！！」

とおめめを ブスリ。

ひっちゃんかめっちゃんか、もみくちゃんめちゃんかの

おおげんかになったので、ママトリがやってきて、

2ひきの あたまをゴツンと ゲンコツしました。

## 3びよ

ガチャガチャッ

と大きな音がしてギイイと重たいとびらが開きました。

バッサバッサと床いっぱいのウンコを、ホウキとチリトリではらいます。

ニワトリやヒヨコたちも、まっすぐにならんで、羽を1ぼんぬきとり、

ハラハラとかなあみのホコリをはらいます。

はんじゆくヒヨコもまねをして羽をぬきとり、かなあみのホコリをペチヨリペチヨリ・・・。

あれれ？ まったく上手にできません。はんじゆくヒヨコの羽はどうにもしっとりしめっています。

あれれ？ あれれ？ すると、となりでみていたおそうじ大好きのおこりんぼオバトリが

イライラしはじめました。

おそうじのじかんがおわると、ぐりんっとむきをかえてしっぽでほっぺをバチン！！

「うひやあああ！！！」

くるくると体がまわってあれよあれよとかなあみから小屋の外にぬけだして

しまいました。

はんじゆくヒヨコは ぷにゅぷにゅ なのでかなあみを 通りぬけて しまったのです。

ママは また たまごを うんでいて ちっとも 気づいていません。

はんじゆくヒヨコは ちょっと 考えてから そのまま くさむらの向こうへ ヨチヨチと 歩きだしました。

## 4 ぴよ

外は はじめて 見るもので いっぱい でした。

葉っぱを あるく ダンゴムシ、背の 高い ねこじゃらし、大きな 大きな 空。

はんじゆくヒヨコが ねこじゃらしを つつついてみると、びよーんと

はねかえって きて おでこに バシッ とあたりました。

キイツと 怒って ケンカしても おなじように やられてばかり。

何回も おでこを たたかれて ついにはぶぶぷっと 笑って しまいました。

大きな 田んぼで 水たまりを みつけて えいやっと とびこむと、

ゆっくり 泳いでいた おたまじゃくしたちが びっくり して、

小さなしっぽで はんじゆくヒヨコに どろを かけて にげました。

水たまりの かがみで どろだらけの 顔を みて あははっと 笑って しまいました。

とても いいかおりの する お花を みつけました。

やわらかい 花びらの おくには たくさんのみつがあったので、

ちょびっと のんでみると、きゅうに頭が ふらふら します。

あまりにも あまいのでよっぱらった みたいに いい気持ちで へへへと 笑って しまいました。

そうだ！！ こんなに 楽しいことがあるのなら、みんなに 教えてあげなきゃ！

そう思って、小屋にもどろうと、はんじゅくヒヨコが後ろを ふりむくと、

そこには キツネの 大きな 顔がありました。

## 5びよ

「おいしそうだな。くっちゃおう。」

「ちょ、ちょっとまってよ キツネさん。

ぼくは まだ はんじゅく だよ。

もう少しで ジューシーな とりにくに なるんだよ。」

キツネは おいしそうな からあげを 想像 しました。

はんじゅくヒヨコは そのすきに 逃げだします。

いやー、なんとか たすかった。

くさむらのかげに かくれて ほっと ひといき つきました。

あんなこわいことは もう こりごりだ。

こんどこそ 帰ろうとはんじゆくヒヨコが くさむらから 顔を だすと、

したをピロピロ だしている ヘビの かおが 目の前にありました。

「おいしそうだな。いただきます」

「ちょ、ちょ、ちょ、ちょいと 待ってよ おへビさん。

ぼくは もう はんじゆく だよ。

時間が たちすぎた生たまごの おっさん みたいな もんさ！

たべたら おなかこわすよ？」

へビは よっぱらって やさぐれたへんな臭いのするおっさんを想像 しました。

はんじゆくヒヨコは そのすきに 逃げだします！ ところが、

「それでもいいよん！！」

へビは はんじゆくヒヨコをまるっと ひとのみ。

「うひやあああ！！！」

はんじゆくヒヨコは ヘビに のみこまれて しまいました。

## 6ぴよ

それから 長い時間が すぎたころ です。

へビが おなかをこわして うんうんと ねこんで いると、

はんじゆくヒヨコがおしりの あなから

ほっこりとでてきました。

「ふう、まったくひどいめに あった。」

小屋の なかでは、はんじゆくヒヨコがいなくなったことに 気づいた ママトリが

大きな声でないて いました。と、そこへ、

「ただいまー」

「え？ ぼうやなの！？」

帰ってきたはんじゆくヒヨコに ママトリは おめめを 丸くしました。

「もう 会えないかと おもって いたわ」

さっき よりもぼろぼろと おおつぶの なみだを ながして だきしめました。

あらら？ でも なんでしょう。なんだか、とっても くさい におい。

ほかの ニワトリや ヒヨコたちは、きゅうにはんじゆくヒヨコを こわがって

すみっこににげだしました。あの いじわるなヒヨコも オバトリも でした。

「はっはっはっ！

じつは 少しだけ ヘビのウンチと 合体 したのさ！！」

はんじゆくヒヨコがチャーミングに ペロリと ベロを だすので、

ママトリはオーケー！ と、ちからいっぱい だきしめました。

おしまい。





---

はんじゆくヒヨコ(仮)

---

著 Reman

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---